

地域との対話の概要

平成 25 年 1 月 16 日
薩 摩 川 内 市

【ポイント】

1. ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、地域の具体的なニーズを吸い上げるべく、2つの団体との意見交換を行った。
2. まちづくりや防災の観点からの意見のほか、具体的な取組や人口減少等の課題解決の参考になる意見等も出された。

1. 経緯

これまでのビジョン策定委員会及び地元作業部会での委員の意見を踏まえ、ビジョンや行動計画の実効性を担保するため、地域の具体的なニーズを吸い上げるべく、地区コミュニティ協議会(15カ所)と団体・機関等(5カ所)との意見交換を実施してきた。

これに引き続き、更に市民のニーズを吸い上げるべく、川内青年会議所及び城上地区コミュニティ協議会との意見交換を行った。

2. 意見交換日程

以下の2カ所で実施。いずれの会場も役員・会員等(十数名)が出席した。

- (1) 12月5日(水):川内青年会議所
- (2) 1月7日(月):城上地区コミュニティ協議会

3. 出席者から頂いた主なご意見

(1) 川内青年会議所

- (ア) 次世代エネルギーを活用したまちづくりは、若手就労者が流出するのを止めたいのか、それとも市外から人を呼び込みたいのか。
- (イ) エネルギーを活用したベンチャー企業の立ち上げ等に関しては、ある程度の優遇措置を考えてはどうか。
- (ウ) まちづくりの観点から、誰も取り上げないような取組をいち早く実施して、インパクトを与え、ニュースにならないといけない。
- (エ) 新たな事業や計画は基本的に中心部から実施するイメージがあるので、周辺部にも経済を活性化させる事業や次世代エネルギー施設等をつくってほしい。

- (オ) 市民や会社は、ビジネス(お金)の匂いがすると格段の関心を持つので、何か思い切ったことはできないか。
- (カ) エネルギーの防災の観点から、エネルギーが止まった時の対策も考慮する必要があるのではないか。
- (キ) 目的がエネルギーの作り方や使い方の意識を高めることであるので、エネルギーにあまり興味のない人達からも何かアイデアを引き出せる仕組みはつくれないか。

(2) 城上地区コミュニティ協議会

- (ア) 10年後には原発がなくなり、次世代エネルギーで全部を補充できるというビジョンなのか。
- (イ) 説明資料(エネルギー源ごとの特徴や課題)の中には、コジェネは掲載されていないが、コジェネについても検討したのか。
- (ウ) 中郷の上池と下池を利用し、らせん水車等を設置して、揚水発電を行うことはできないのか。
- (エ) 市庁舎の廊下に、床を踏む時に発電する設備を設置して、市民等に体験やPRを図ってはどうか。
- (オ) 川内港に波を利用した実験的な設備を設置してはどうか。
- (カ) 何か試作品をつくり、形にして見せれば、市民も理解できるのではないか。
- (キ) 現在、火力発電所はフル稼働しているが、CO₂などの問題は大丈夫なのか。

以上

これまでの地域との対話の中で出された具体的な取組等について

- (1) 定住対策に関し、太陽光発電等を設置した賃貸住宅を設置してはどうか。
- (2) コミュニティセンターに太陽光発電設備や、電気自動車を導入してはどうか。
- (3) 地域のニーズに応じ、太陽光、風力、小水力、温泉熱、海洋エネルギー等を活用した地域振興を進め、これらの電気や熱を地域の観光資源と結び付けてはどうか。
- (4) 防犯対策も兼ねて、太陽光発電を活用した外灯を設置してはどうか。
- (5) 市役所の公用車に関し、防災対策を兼ねて電気自動車を積極導入してはどうか。
- (6) 農産物の生産プロセスに再生可能エネルギー由来の電気や熱を活用し、生産コストを削減することはできないか。
- (7) 公共施設の建設の際に、太陽光発電設備を備えた防災拠点の整備を進めてはどうか。
- (8) 遊休地や耕作放棄地等を活用して太陽光パネルの設置はできないか。
- (9) メガソーラーのパネルの下を活用して、水耕栽培施設のような工場を誘致するなど、有効的な活用はできないか。
- (10) クリーンセンターから出る排熱を利用して発電を行い、所内の電気を賄うことはできないのか。
- (11) 次世代エネルギーは、設置費用がネックになっているので、基金を設けて設置費用を無料にするくらいの思い切った施策が必要ではないか。
- (12) 市内には山林が多いので、木材からリグニンとセルロースを分離して、バイオプラスチックを作ってはどうか。
- (13) 個人の出費を抑えるために、太陽光パネルをリースにして、一般の住宅に取り付けてもらい、蓄電や売電する仕組みはつくれないか。
- (14) 発電等の施設を活用して、薩摩川内市の入口である川内駅を活性化させ、エネルギーのまちであることをPRし、より多くの人を呼び込めないか。
- (15) 海洋エネルギーについて研究し、メディアに発表していけば話題性を呼び、市のPRにもつながるのではないか。
- (16) 作り手のいない耕作地を使ってさつまいもを栽培し、これを使って「イモ発電」を行う。売電益をコミュニティに還元し、活動費に補てんするモデルを構築してはどうか。
- (17) 新田神社等、まちが誇れる設備を再生可能エネルギー由来の電気ですライトアップしてみてもどうか。
- (18) 限界集落対策として、デマンド交通の導入や、耕作放棄地への太陽光発電の導入等を考えてはどうか。
- (19) 「日本一休まない図書館」に、太陽光発電設備等の「勲章」を与えてはどうか。
- (20) お年寄りが元気を出してもらえるよう、お年寄りだけのコンサートを開催し、その電源を再生可能エネルギーで賄ってはどうか。
- (21) 太陽光パネルを自治会館等の屋根に設置し、売電益を自治会の費用に充てる仕組みを各地区で実施する考えはないか。

- (22) 市内には良い温泉が多いので、温泉を観光産業として発展させるため、温泉への交通アクセスの利便性を図ってはどうか。
- (23) 市外から人を呼び込めるような施設(遊園地等)を整備すれば、ホテル等も1年中賑わうのではないか。
- (24) 中郷の上池と下池を利用し、らせん水車等を設置して、揚水発電を行うことはできないか。
- (25) 市庁舎の廊下に、床を踏む時に発電する設備を設置して、市民等に体験やPRを図ってはどうか。
- (26) 川内港に波を利用した実験的な設備を設置してはどうか。